

【展示期間】
① 9月19日(土)~10月11日(日)
② 10月12日(月・祝)~11月1日(日)
③ 11月3日(火・祝)~11月22日(日)
④ 11月23日(月・祝)~12月23日(水・祝)

Ⅲ. 豆判の世界

「春画」と一言でいっても、古くは平安時代から近現代まで数多の絵師が描いており、形式も様々、テーマも幅広く、実に豊かな世界をみせる。品格や値段という点からみた春画の頂点が肉筆春画であるならば、その対極にあるのが豆判春画ではなからうか。大きさはおよそ縦9センチ・横13センチ弱。12枚や8枚など組物として売られたものが多い。値段もお手頃なものであったと思われる。しかしながら、絵師が凝らした趣向がその小さな判型の中に凝縮されている。

豆判春画は文政期(1818 ~ 30)頃から盛んにつくられるようになる。小さな春画

作品番号	作品名称	絵師	制作年代	所蔵者	展示期間					
118	<small>まめばん えんご ちかおしとてらだいしよほら</small> <p>豆判絵曆 忠臣蔵大小曆</p>	絵師不詳	文政5年(1822)			①	②			各期場面替
119	<small>まめばん やくしやろ しんご</small> <p>豆判 役者絵春画</p>	絵師不詳	江戸時代(19世紀)					③	④	各期場面替
120	<small>まめばん けつだいせんご</small> <p>豆判 欠題春画</p>	絵師不詳	江戸時代(19世紀)			①	②			各期場面替
121	<small>まめばん えんご めいしうたか</small> <p>豆判絵曆 名松合</p>	絵師不詳	文政11年(1828)			①	②			各期場面替
122	<small>まめばん えんご えまきものたけけじん</small> <p>豆判絵曆 絵巻物百美人</p>	「林年人」(歌川国虎)落款	文政11年(1828)			①	②			各期場面替
123	<small>まめばん えんご ぶ ぶ しのぶ</small> <p>豆判絵曆 戯画の春画</p>	絵師不詳	江戸時代(19世紀)					③	④	各期場面替
124	<small>ちや たてぞの</small> <p>茶の湯の立初</p>	絵師不詳	江戸時代(19世紀)					③	④	各期場面替
125	<small>いまようじゆにかげつ</small> <p>今様十二ヶ月</p>	絵師不詳	江戸時代(19世紀)			①	②			各期場面替
126	<small>まめばん あいらいげんじ</small> <p>豆判 相生源氏</p>	絵師不詳	江戸時代(19世紀)					③	④	各期場面替
127	<small>けつ ちや</small> <p>鍾馗</p>	絵師不詳	江戸時代(19世紀)			①				
128	<small>ぶし きたく</small> <p>武士の帰宅</p>	絵師不詳	江戸時代(19世紀)			①				
129	<small>おおつ ぶしんご</small> <p>大津絵春画</p>	絵師不詳	江戸時代(19世紀)			①				
130	<small>こんじしんご</small> <p>紺地春画</p>	絵師不詳	江戸時代(19世紀)				②			
131	<small>まめばん えんご しんご とうざにじ</small> <p>豆判絵曆 春画 寅十二時</p>	絵師不詳	文政4年(1821)				②			
132	<small>しよ ぶしんご</small> <p>将棋春画</p>	絵師不詳	江戸時代(19世紀)				②			
133	<small>まめばん えんご からざりしんご</small> <p>豆判絵曆 空摺春画</p>	絵師不詳	文政2・3年(1819・20)					③	④	各期場面替

本展出品の春画は、いずれも大名家から庶民までの、江戸時代以前の人々の暮らしの中で享受されて今に伝わったものであり、実に多くの春画が制作されてきたことがわかる。

現存する春画は、もちろん本展出品作にとどまるものではなく、それこそ無数にあることだろう。

日本で最初の春画展である本展をきっかけに、春画が、長い日本の歴史の中で、人々とともにあったことを知っていただければ幸いである。



愛を交わす様子を描いた春画には、複数の場面で一つの作品を構成するものがある。そのとき、最初に描かれた場面は、まだ愛を交わすに至っていないことが多い。二人が見つめあい、手を取り、そっと引き寄せ、裾に手を差し入れるのが、導入部として、控えめに描かれる。本展も「プロローグ」として、二人が接近して心を通わし、触れ合う情景を描いたところから始めて、贅を凝らした春画の世界へ、徐々に入っていくことにしたい。

－ プロローグ －

作品番号	作品名称	絵師	制作年代	所蔵者	展示期間					
50	<small>みずあそ</small> <p>水遊び</p>	鳥居清満	明和3年(1766)頃			①				
51	<small>わたづかひな</small> <p>綿摘女</p>	鈴木春信	明和5年(1768)頃					③		
52	<small>きぼる</small> <p>煙管</p>	鈴木春信	明和6年(1769)頃						④	
53	<small>えんがわ しやみせん</small> <p>縁側に 三味線</p>	鈴木春信	明和6・7年(1769・70)頃			①				
54	<small>じかみう</small> <p>地紙売り</p>	鈴木春信	明和7年(1770)頃						④	
56	<small>ふうりゆう べい ぱんこく へきしよ</small> <p>風流江戸八景 両国の開仕</p>	鈴木春信	明和6・7年(1769・70)頃				②			
60	<small>しきどきよりるみずのし ばん</small> <p>色道取組十二番</p>	磯田湖龍斎	安永6年(1777)				②			
61	<small>いたづらや行水を覗く夕鳥</small>	北尾重政	明和年間(1764～72)頃				②			
66	<small>しきどうじゆに ばん</small> <p>色道十二番</p>	鳥居清長	天明4年(1784)頃						④	
68	<small>あぶな絵 えおや こんなん</small> <p>あぶな絵 親子三人</p>	喜多川歌麿	江戸時代(18～19世紀)						③	
86	<small>あぶな絵 つたて</small> <p>あぶな絵 衝立</p>	菊川英山	文化年間(1804～18)			①				
87	<small>あぶな絵 げんじものたけ</small> <p>あぶな絵 源氏物語</p>	溪斎英泉	文政年間(1818～30)			①				
88	<small>あぶな絵 こんたつ</small> <p>あぶな絵 炬燵</p>	溪斎英泉	文政年間(1818～30)						④	
89	<small>あぶな絵 えわかしや かみゆ おんな</small> <p>あぶな絵 若衆と髪結う女</p>	溪斎英泉	文政年間(1818～30)				②			
90	<small>うめがえ</small> <p>梅が枝</p>	溪斎英泉	文政年間(1818～30)						③	
91	<small>びんがま</small> <p>屏風の前</p>	溪斎英泉	文政年間(1818～30)						③	

I. 肉筆の名品

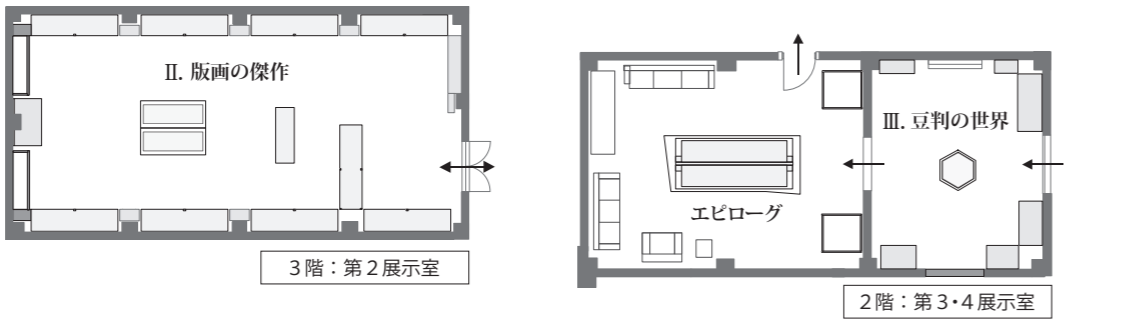
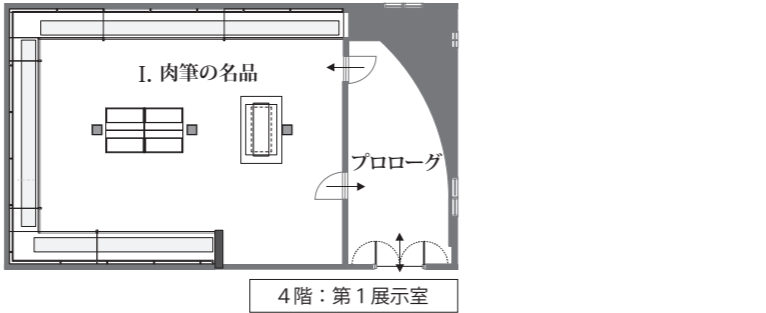
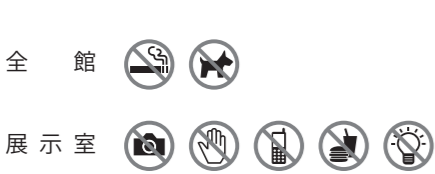
古くは平安時代からある春画の始まりは、絵師自らの筆で丹念に1枚づつ描く肉筆作品であった。平安時代には「偃息図の絵」と呼ばれる春画が親王に献上された記録があり、室町時代の末期から江戸時代初期にかけては、時の権力者の絵画御用を担った狩野派や土佐派の絵師たちが多くの春画を描いた。そして江戸時代に庶民文化が花開くと、浮世絵版画で活躍する多くの絵師たちも肉筆の春画に腕を振るうようになる。

作品番号	作品名称	絵師	制作年代	所蔵者	展示期間					
1	<small>こしほがきぞうし えまき</small> <p>小柴垣草紙絵巻</p>	絵師不詳	鎌倉時代(13世紀)			9/19~10/4				最初の2週間
2	<small>こしほがきぞうし</small> <p>小柴垣草紙</p>	伝住吉具慶 筆	江戸時代(17世紀)	ミカエル・フォーニッツコレクション		①	②	③	④	前後期巻替
3	<small>ちごのそうし</small> <p>稚児之草紙</p>	絵師不詳	江戸時代(19世紀)	大英博物館				③	④	
4	<small>ふたばうし えまき</small> <p>袋法師絵詞</p>	絵師不詳	江戸時代(17世紀)	ミカエル・フォーニッツコレクション				③	④	
5	<small>かた えまき</small> <p>勝絵絵巻</p>	絵師不詳	室町時代(15世紀)	三井記念美術館		①	②			
6	<small>けつだいしんご えまき</small> <p>欠題春画絵巻</p>	狩野派	江戸時代(17世紀前期)	大英博物館		①	②			

－ エピローグ －

作品番号	作品名称	絵師	制作年代	所蔵者	展示期間					
11	<small>けつだいしゆにかげつ</small> <p>欠題十二ヶ月</p>	狩野派	江戸時代(17世紀)	永青文庫		①	②	③	④	前後期巻替
78	<small>えんご べんご ちよんご</small> <p>艶紫唄拾餘帖</p>	歌川国貞	天保6年(1835)頃	永青文庫		①	②	③	④	前後期頁替

◎ 会場案内図



2015年9月19日(土)～12月23日(水・祝) 永青文庫

前期／2015年9月19日(土) ～ 11月1日(日)

後期／2015年11月3日(火・祝)～12月23日(水・祝)

- ◆作品番号は、会場の番号と一致しますが、展示の順序とは必ずしも一致しません。
- ◆都合により予定外に展示作品を変更する場合があります。また、必要に応じて展示替・頁替・巻替を行う場合があります。
- ◆展示室内の温度・湿度・照明は、作品保護ならびに所蔵者の貸出条件に従い管理されています。

◎各作品の展示期間 ※目録内の番号を確認してください。

前期	①	9月19日(土)	～	10月11日(日)
	②	10月12日(月・祝)	～	11月1日(日)
後期	③	11月3日(火・祝)	～	11月22日(日)
	④	11月23日(月・祝)	～	12月23日(水・祝)

【展示期間】 ① 9月19日(土)~10月11日(日) ② 10月12日(月・祝)~11月1日(日) ③ 11月3日(火・祝)~11月22日(日) ④ 11月23日(月・祝)~12月23日(水・祝)

作品番号	作品名称	絵師	制作年代	所蔵者	展示期間
7	花園春画絵巻 <small>はなぞのいろはに 春まき巻</small>	長谷川等仙 筆	桃山時代～江戸時代(17世紀)	ミカエル・フォーニッツコレクション	10/6～11/1 ③ ④ 上下巻入替
8	又兵衛様式春画卷 <small>またべ 又とうきさむし 春がかん</small>	岩佐派	江戸時代(17世紀中頃)	白澤庵	① ②
9	欠題春画絵巻六図 <small>けつだいいろはに 春まきらくず</small>	絵師不詳	江戸時代(17世紀)	大英博物館	③ ④
10	春画絵巻	狩野派	江戸時代(17世紀)	岡田美術館	③ ④
12	吉原枕絵様式春画帖 <small>よしわらのまくら 春まきいろはに 春がかん</small>	絵師不詳	万治 3年(1660)頃	ミカエル・フォーニッツコレクション	① ②
13	衆道図巻 <small>しゅうどう ずかん</small>	菱川派	江戸時代(17世紀)	林原美術館	① ②
14	春秋 <small>しゅんしゅう</small>	鳥居清信 筆	正徳年間(1711～16)		① ② ③ ④ 上下巻入替
15	恋三味線 <small>こいしやみせん</small>	長陽堂安知 筆	享保年間(1716～36)	ミカエル・フォーニッツコレクション	③ ④
16	春宵秘戯図巻 <small>しゅんせうひぎずかん</small>	西川祐信 筆	享保年間(1716～36)中期		③ ④
17	花の色香	宮川長春 筆	享保15年(1730)頃	ミカエル・フォーニッツコレクション	① ②
18	競艶図 <small>きんえん ず</small>	古山師政 筆	元禄年間(1688～1704)末頃	ミカエル・フォーニッツコレクション	③ ④
19	春宵秘戯図巻 <small>しゅんせうひぎずかん</small>	月岡雪艸 筆	明和 4～ 9年(1767～72)	ミカエル・フォーニッツコレクション	③ ④
20	四季画卷 <small>しき ずかん</small>	月岡雪艸 筆	安永年間(1772～81)前期	ミカエル・フォーニッツコレクション	① ②
21	競艶図 <small>きんえん ず</small>	月岡雪艸 筆	江戸時代(18世紀)		③ ④
22	春宵秘戯図巻 <small>しゅんせうひぎずかん</small>	月岡雪艸 筆	江戸時代(18世紀)		① ②
23	耽溺図断簡 <small>たんでき ず だんにくかん</small>	絵師不詳	天明年間(1781～89)～寛政年間(1789～1801)	ミカエル・フォーニッツコレクション	① ②
24	艶画拾貳図 <small>えんが じゅうに ず</small>	歌川豊春 筆	明和 5年～文化10年(1768～1813)頃		① ②
25	好色十二図 <small>こうしきじゅうに ず</small>	歌川国政 筆	享和 3年～文化 3年(1803～06)	ミカエル・フォーニッツコレクション	① ②
26	金瓶梅 <small>きんぺいばい</small>	歌川国貞 筆	江戸時代(19世紀)		① ② ③ ④ 上下巻入替
27	春画卷 <small>しゅんが かん</small>	円山応挙 筆	江戸時代(18世紀)		③ ④
28	地獄草紙絵巻 <small>じごくそうし えまき</small>	絵師不詳	寛政 8年(1796)	国際日本文化研究センター	① ②
29	春画幽霊図 <small>しゅんが ゆうれい ず</small>	勝川春英 筆	江戸時代(19世紀)	ミカエル・フォーニッツコレクション	③ ④
30	妖怪見立陰陽画帖 <small>ようかい 見だていんよう ずかん</small>	伝歌川国芳 筆	江戸時代(19世紀)	国際日本文化研究センター	① ②
31	陽物涅槃図 <small>ようぶつ ねはん ず</small>	絵師不詳	江戸時代(19世紀中頃)	大英博物館	① ②
32	鶴鶴巻 <small>せせれいかん</small>	狩野山楽 筆 英一蝶 補作	桃山時代(16～17世紀)	ミカエル・フォーニッツコレクション	③ ④
33	懐春図 <small>かいしゅん ず</small>	英一蝶 筆	江戸時代(17～18世紀)		③ ④
34	源氏物語春画卷 <small>げんじものがたり 春まき ずかん</small>	烏文斎栄之 筆	江戸時代(18～19世紀)	林原美術館	③ ④
35	四季競艶図 <small>しき きんえん ず</small>	烏文斎栄之 筆	寛政年間(1789～1801)	ミカエル・フォーニッツコレクション	③ ④
36	春の戯れ <small>はる たわむ</small>	烏文斎栄之 筆	江戸時代(18～19世紀)	岡田美術館	① ②
37	春画卷 <small>しゅんが かん</small>	狩野典信 筆	宝暦12年(1762)～安永 9年(1780)	徳川ミュージアム保管	① ② ③ ④ 前後期巻替
38	天祭両蓋 <small>てんさいりょうがい</small>	狩野彰信(章信) 筆	文化11年(1814)	白澤庵	① ②
39	秘戯図巻 <small>ひぎ ずかん</small>	野沢堤雨 筆	江戸～明治時代(19世紀)		① ②
40	狐忠信と初音図(春画屏風) <small>きつただのぶ はずね ず しゅんが びょうぶ</small>	絵師不詳	江戸時代(19世紀)		① ②

II. 版画の傑作

江戸時代に入ると版画技術がめざましい発展を遂げ、春画も浮世絵版画とともに版画で量産されるようになる。男女の大胆な交合図の一方で、旺盛なパロディ意欲をもって医学書や解剖図、世界図、歌舞伎など、さまざまなジャンルが版画で春画化され、性を基調としたその面白みは庶民から大名まで幅広く愛好された。さらに好色本の類の出版を禁止した享保の改革以降、春画は地下出版、あるいは私家本として制作・販売されていくが、何の規制も受けなくなったことで、贅を

作品番号	作品名称	絵師	制作年代	所蔵者	展示期間
41	和合同塵 <small>わごうどうじん</small>	菱川師宣	延宝 6年(1678)	東洋文庫	① ② ③ ④ 前後期頁替
42	枕絵組物 <small>まくら 絵くみもの</small>	菱川師宣	延宝年間(1673～81)後期		① ② ③ ④ 各期場面替
43	若衆遊伽羅之枕 <small>わかしのあそびがら のまくら</small>	菱川師宣	延宝 3年(1675)	国際日本文化研究センター	① ② ③ ④ 前後期頁替
44	床の置物 <small>とこ 置きもの</small>	菱川師宣	天和年間(1681～84)	国際日本文化研究センター	① ② ③ ④ 前後期頁替
45	枕絵組物 <small>まくら 絵くみもの</small>	杉村治兵衛	元禄年間(1688～1704)前期	国際日本文化研究センター	① ② ③ ④ 各期場面替
46	夫婦双乃岡 <small>ふうふ なるかの おか</small>	西川祐信	正徳 4年(1714)	国際日本文化研究センター	① ② ③ ④ 前後期頁替
47	欠題春画組物 <small>けつだいいろはに 春まき ぐみもの</small>	鳥居清信	宝永年間(1704～11)	国際日本文化研究センター	① ② ③ ④ 各期場面替
48	染色のやま 閨の雛形 <small>ぞめいろ やま ぬい なながた</small>	奥村政信	寛延元～ 3年(1748～50)頃	国際日本文化研究センター	① ② ③ ④ 各期場面替
49	伊勢物語俳諧まめ男夢想頭巾 <small>い せものがたり ばいはいかい まめお ぼんそうず かん</small>	奥村政信	寛延元年(1748)	国際日本文化研究センター	① ② ③ ④ 前後期頁替
55	夕涼み <small>ゆうすずみ</small>	鈴木春信	明和 6・ 7年(1769-70)頃		④
57	風流艶色真似ゑもん <small>ふうりゅうえんしきまねえもん</small>	鈴木春信	明和 7年(1770)	国際日本文化研究センター	③ ④ 各期場面替

こらした作品が数多く作られていく。金銀やぼかし、空摺など、超絶技巧ともいうべき版画技術が施された大家名の春画は、この時代の見影の一作であろう。浮世絵の祖である菱川師宣に続き、鈴木春信、月岡雪艸、鳥居清長、喜多川歌麿、葛飾北斎など名だたる浮世絵師が世に送り出した版画、版本の数々。自由奔放な創作意欲と才能に満ち溢れる傑作を、この章に集めた。

作品番号	作品名称	絵師	制作年代	所蔵者	展示期間
58	風流座敷八景 <small>ふうりゅうざしき ばっけい</small>	鈴木春信	明和 7年(1770)		① ② 2週間ごとに場面替
59	欠題春画貼込帖 <small>けつだいいろはに 春まき 貼こみじょう</small>	鈴木春信	明和 5～ 7年(1768～70)頃	東洋文庫	① ② 各期場面替
62	閨花鳥禪 <small>けい かとりだぜ</small>	北尾重政	天明 3年(1783)頃	東洋文庫	① ② ③ ④ 前後期頁替
63	会本拝開夜婦子取 <small>えほんはいかい やぶこ どり</small>	勝川春章	天明 8年(1788)		① ② ③ ④ 各期場面替
64	好色図会十二候 <small>こうしきず じふにこう</small>	勝川春潮	天明 8年(1788)頃	国際日本文化研究センター	① ② ③ ④ 各期場面替
65	色部類十二好 <small>いろぶるいじふにこう</small>	勝川春潮	天明 5年(1785)	大英博物館	① ②
67A	袖の巻 <small>そで まき</small>	鳥居清長	天明 5年(1785)頃	国際日本文化研究センター	③ ④ 各期場面替
67B	袖の巻 <small>そで まき</small>	鳥居清長	天明 5年(1785)頃	東洋文庫	① ② 各期場面替
69A	歌まくら <small>うた</small>	喜多川歌麿	天明 8年(1788)	浦上満氏蔵	9/19-10/4 11/17-12/23 場面替
69B	歌まくら <small>うた</small>	喜多川歌麿	天明 8年(1789)		10/6～11/15 2週間ごとに場面替
70	婦美の清書 <small>ふみ きよがき</small>	鳥橋斎栄里	享和元年(1801)		① ② ③ ④ 各期場面替
71	絵本笑上戸 <small>えほんからいしうご</small>	喜多川歌麿	享和 3年(1803)	国際日本文化研究センター	① ② ③ ④ 各期場面替
72	ねがひの糸ぐち <small>いと</small>	喜多川歌麿	寛政11年(1799)	国際日本文化研究センター	① ② ③ ④ 各期場面替
73	喜能会之故真通 <small>きのえのこまつつ</small>	葛飾北斎	文化11年(1814)	浦上満氏蔵	① ② ③ ④ 各期場面替
74	富久寿梵字 <small>ふくしゅ ぼんじ</small>	葛飾北斎	文化12年～文政年間(1815～30)前期	ミカエル・フォーニッツコレクション	① ② ③ ④ 各期場面替
75	浪千鳥 <small>なみち どり</small>	葛飾北斎	文政年間(1818～30)		① ② 2週間ごとに場面替
76	万福和合神 <small>まんぶくわごうじん</small>	葛飾北斎	文政 4年(1821)	国際日本文化研究センター	① ② ③ ④ 各期頁替
77	四季の詠 <small>しき ながめ</small>	歌川国貞	文政10・12年(1827・29)		① ② 各期頁替
79	花鳥餘情 吾妻源氏 <small>かとりよるじょう あづまげんじ</small>	歌川国貞	天保 8年(1837)頃	国際日本文化研究センター	① ② ③ ④ 各期頁替
80	正写相生源氏 <small>しょうしやうせいげん じ</small>	歌川国貞	嘉永 4年(1851)頃	国際日本文化研究センター	① ② ③ ④ 各期頁替
81	正写相生源氏 袋(包紙貼込帖のうち) <small>しょうしやうせいげん じ ぶろ ほうし 貼りこみじょう</small>	歌川国貞	嘉永 4年(1851)頃	東洋文庫	① ②
82	春色初音之六女 <small>しゅんしき はつねの ろのむすめ</small>	歌川国貞	天保13年(1842)	国際日本文化研究センター	③ ④ 各期頁替
83	逢見八景 <small>おうみ ばっけい</small>	歌川国芳	天保 4年(1833)	国際日本文化研究センター	① ② ③ ④ 各期場面替
84	華舌母見 <small>はな したま ぼり</small>	歌川国芳	天保 6年(1835)	国際日本文化研究センター	① ② 各期場面替
85	江戸錦 吾妻文庫 <small>えどにしき あづまぶんこ</small>	歌川国芳	文久 2年(1862)	国際日本文化研究センター	③ ④ 各期場面替
92	春野薄雪 <small>はるの うすゆき</small>	淡斎英泉	文政 5年(1822)	東洋文庫	③ ④
93	華月帖 <small>かげつじょう</small>	狩野永岳・円山応震・土佐光文ほか	天明年間(1781～89)～寛政年間(1789～1801)	国際日本文化研究センター	③ ④
94	婚礼秘要袋 <small>こゝれひ ぴやう ぶくろ</small>	月岡雪艸	天保 7年(1836)	国際日本文化研究センター	① ②
95	女大学宝箱 <small>おんなだいがく くらぼこ</small>		享保元年(1716)		① ②
96	女大衆宝開 <small>おんなだいらく くらべき</small>	月岡雪艸	宝暦年間(1751～64)後期頃		① ②
97	女貞訓下所文庫 <small>おんなていしん げしよぶんこ</small>	月岡雪艸	明和年間(1764～72)後期	国際日本文化研究センター	① ②
98	枕童子扱差方遍玉蓋 <small>まくらごろう じ ぬきさしまんべんたまごき</small>	竹原春朝斎	安永 5年(1776)	国際日本文化研究センター	① ② ③ ④ 前後期頁替
99	お染久松 <small>おめりきまつ</small>	北尾重政	安永年間(1772～81)後期		① ②
100	開 おはん長右衛門おちよ半兵衛 曾女分美婦人 <small>かい おはん ちよう えもん おちよ はんべい せいめわけよいぶじん</small>	絵師不詳	天明元年～寛政元年(1781～89)	立命館大学アート・リサーチセンター(arcBKE3-0005)	③ ④
101	好色訓蒙図彙 <small>こうしき くんもうずい</small>	吉田半兵衛	貞享 3年(1686)	国際日本文化研究センター	① ②
102	医道日用重宝記 <small>い どうにちようじゅうほうき</small>		元禄 5年(1692)初版 延享 4年(1747)改訂	国際日本文化研究センター	③ ④
103	艶道日夜女宝記 <small>えんどうにちや じよほうき</small>	月岡雪艸	明和年間(1764～72)頃	国際日本文化研究センター	③ ④
104	閨中紀聞 枕文庫 <small>けいしゅん じ ぶろ</small>	淡斎英泉	文政 6年(1823)再版	国際日本文化研究センター	①
105	万交区新話 <small>ばんかうきう しんわ</small>	晚鐘成	嘉永 5年(1852)	国際日本文化研究センター	①
106	大物船艘頭吉野腹矢倉 義経専犯枕 <small>おほものぶねまんとくしよののばら やぐら よしつねせんぱんまくら</small>	北尾政美	天明元～ 8年(1781～88)	立命館大学アート・リサーチセンター(arcBKE3-0012)	②
107	好色 魂膽遺精夢 <small>こうしき こんだん いせいゆめ</small>	伝恋川春町	寛政元年(1789)	立命館大学アート・リサーチセンター(arcBKE3-0007)	②
108	絵本 閑談夜之殿 <small>えほん かんだん やのとの</small>	歌川国貞	文政 9年(1826)	立命館大学アート・リサーチセンター(arcBKE2-0001)	① ② ③ ④ 各期頁替
109	絵本 開中鏡 <small>えほん かいちゅうきやう</small>	歌川豊国	文政 6年(1823)	国際日本文化研究センター	① ② ③ ④ 各期頁替
110	笑翔色物馬鹿本草 <small>えほん しょうしき ばかほんそう</small>	磯田湖龍斎	安永 7年(1778)頃	国際日本文化研究センター	① ②
111	祝言色女男思 <small>しゅげんいろ 女男し</small>	歌川国虎	文政 8年(1825)	国際日本文化研究センター	① ②
112	古能手佳世話 <small>このて がしわ</small>	淡斎英泉	天保 7年(1836)	国際日本文化研究センター	① ② ③ ④ 各期頁替
113	御覽男女姿 <small>おみ ねの し</small>	勝川春英	寛政元年(1789)	国際日本文化研究センター	③ ④
114	好色役者枕がへし <small>こうしきやくしやまくらがへし</small>	西川祐信	享保 4年(1719)頃	立命館大学アート・リサーチセンター(arcBKE3-0015)	③ ④
115	艶好虎之巻(艶色 女熊坂虎之巻) <small>えんこうこらの まき えんしき ぬくまかたらの まき</small>	奥村政信	延享 2年(1745)	立命館大学アート・リサーチセンター(arcBKE2-0008)	③ ④
116	宝合 <small>たからあはせ</small>	歌川国貞	文政 9年(1826)	立命館大学アート・リサーチセンター(hayBKE6-0004)	③ ④ 各期場面替
117	大和妖狐伝 <small>やまとようこ だん</small>	歌川国安	文政 9年(1826)	国際日本文化研究センター	③ ④